

# 令和4年度 第1回みき歴史資料館協議会議事録

## 1 開会日程

- (1) 開 会 令和4年10月12日(水) 午後1時30分
- (2) 閉 会 令和4年10月12日(水) 午後3時

## 2 場 所 　　みき歴史資料館 3階会議室

## 3 議 題

### (1) 報告事項

- ア 令和4年度上半期実施事業報告・利用者実績
- イ 令和4年度下半期実施事業計画

### (2) 協議事項

- ア 令和5年度事業計画予定(案)について
- イ その他

## 4 出 席 者

- (1) 委 員 木村 修二、安田 信吉、神木 徹、大塚 康生、松下 君子、真野 朱美
- (2) 事務局 本岡教育総務部長、金井文化・スポーツ課長、冨田館長、金松係長

## 5 公開・非公開の別 　　公 開

## 6 傍聴人の数 　　0 人

\*\*\*\*\*

## 1 開 会

## 2 部長挨拶

## 3 委嘱状交付

## 4 自己紹介

## 5 会長及び副会長の選出 　　会長に木村修二氏、副会長に大塚康生氏を選出

## 6 報告事項

### (1) 報告事項

#### ア 令和4年度上半期実施事業報告・利用者実績（資料1・3）

（事務局から報告）

[委員]

企画展「三木飛行場の記憶」の最終日に当たる9月25日に開催された田辺眞人氏の特別講演会は、講演会が1つの企画として行われたものなのか。

[事務局]

企画展に関連した講演会ではなく、副市長から紹介があり企画した講演会である。

[委員]

これまでそういった形態の講演会企画はなかったのか。

[事務局]

大河ドラマ「麒麟がくる」の放送に合わせ、令和2年1月19日に渡邊大門氏を招き、「明智光秀と本能寺の変」と題し講演いただくなど時流に乗った講演会も企画している。

[委員]

参加人数としてはどうだったのか。

[事務局]

今回の特別講演会は定員80名で、ほぼ定員いっぱいでの開催となった。渡邊大門氏の特別講演会は、新型コロナウイルス感染症拡大直前だったため、参加人数は160名であった。

[委員]

講演会は事前申込制なのか。

[事務局]

事前申込制としているが、資料館で開催する堀光美術館の特別講演会や金物資料館との特別企画展連動講座では申込制を採っていない。

[委員]

集客を資料館の第一の目的にすることには議論があると思うが、展示施設と

して展示内容による集客に加え、こういった側面的な講演会の開催で資料館を知ってもらうのも良いと思う。

市史編さん室でも市史を刊行するだけでなく、市民へのアピールとして、刊行した市史をめぐるシンポジウム等の開催を当初は考えていたが、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い出来なくなった経緯がある。

[委員]

子どもの利用者実績が分かれば良いと思う。

[事務局]

来館者数は窓口で集計しており、利用者実績には校外学習による児童・生徒数も含まれているが、年齢構成別には集計をとっていない。

[委員]

アンケートによる傾向把握をしても良いのではないか。

## イ 令和4年度下半期実施事業計画（資料2）

（事務局から報告）

[委員]

企画展「三木市内 小・中・特別支援学校の校舎の記憶」の開催や校外学習実施の緩和もあり、児童・生徒の来館機会も増えるのではないかと思う。

[委員]

山梨県立博物館では小学生向け古文書解読の学習プログラムがあり、神戸市灘区でも大学と連携した同様の企画を計画している。資料館でも市史編さん室と連携し、トライやる・ウィークの中で実施してはどうだろうか。

## (2) 協議事項

### ア 令和5年度事業計画予定（案）について（資料4）

（事務局から説明）

[委員]

来年度7月15日からの企画展の開催中に、兵庫県では来年7月1日から9月30日までの期間で、県内自治体や観光関係事業者、JRグループが一体と

なって開催する兵庫デスティネーションキャンペーンが開催される。また、御城印の販売もJR加古川線、神戸電鉄、北条鉄道沿線で行っており、三木合戦をキーワードに資料館にも協力いただき4市で誘客を図っているところである。

ただ、三木市では、歴史文化に対する予算や人員配置をしていないように思う。都市政策課が開催している地域資源を活かしたまちづくりの会でも、11月20日開催予定の「三木城 秋の陣」や同月23日の「染形紙講演会&灯籠制作会」などソフト事業を係として実施せざるを得ず、県下で最も遅れをとり、本来取り組んでいかななくてはならない景観事業に取り掛かれていないのが現状である。資料館や市史編さん室でも、正規職員1~2名、それ以外は全て会計年度任用職員の体制で維持できるのか疑問である。

[委員]

市史編さん室でも、やるべき事業内容に対する配置人員はかなり厳しいと言わざるを得ないと思っている。

[事務局]

冒頭で説明した通り、資料館では正規職員1名、学芸員についても会計年度任用職員ではあるが2名を含め会計年度任用職員8名を配置しており、文化財保護や発掘調査への取組等で手厚く配置しているのが現状である。ただ、景観事業については、都市政策課や観光振興課等の関係所管課と連携しながら、市全体として取り組んでいきたいと考えている。

[委員]

会計年度任用職員の学芸員2名体制で今後も運営していくということか。

[事務局]

今後、学芸員としての業務内容が増えた場合は、人事の所管課との調整は必要になると思うが、現体制で運営していきたいと考えている。

[委員]

低賃金で不安定な雇用形態が続く中で継続した事業を行っていいのか疑問である。発掘調査が始まるのであれば、なおさらビジョンをもって雇用を確保していく必要があると思う。

[事務局]

総合的な人員配置の観点もあり、この体制で運営していきたいと考えている。

[委員]

近隣市町から、三木市のような人口7～8万人の規模でこれだけのコンテンツがある市町はない、と言われる。その根幹を成すのは歴史文化であると思うが、三木市では他の市町のように保存やリニューアルして活用・誘客に努めず、昭和40～50年代にスクラップ・アンド・ビルドするなど歴史文化を軽視してきたように思う。

[事務局]

市内の貴重な文化財については文化財指定に努め、保存・管理及び継承に努めているところである。

[委員]

本協議会は三木市の歴史文化に関する事業についての根幹的な議論する場であると考えており、本協議会での内容を教育長や市長へ報告するという認識で良いのか。

[事務局]

報告はしており、議事録作成やホームページへの掲載も行っている。

[委員]

議事録作成等により、市の上層部のみならず広く市民の方にも広報していくことが重要であり、本協議会がその公の場であると認識しているので、是非とも行っていただきたいと思う。

イ その他

7 その他

8 閉 会 大塚副会長あいさつ